

御室八十八ヶ所霊場

仁和寺の中には、もともとは寺の一部ではなかった部分も数多くあるが、御室八十八ヶ所霊場もその一つである。この霊場そのものは全長3キロメートル、所要時間2時間のウォーキングコースであり、有名な四国のお遍路をベースとしている。四国のお遍路は、日本列島の主要4島のひとつである四国の外周に位置する88の寺院を巡礼するコースである。

仁和寺にあるのはそのミニチュアバージョンであり、寺の背後にある標高236メートルの成就山を登りながら、88の「札所」と呼ばれる小さな祠を巡るコースである。札所では小さな護符（お札）を集める。そのすべてを手に入れ、コースを踏破することを「結願」と呼び、四国の遍路（距離にして400倍ある）を踏破したのと同じご利益が得られる、とされている。この霊場は1827年に、四国の霊場が混雑をきわめていることを知った仁和寺の29代住職が開いたものである。彼は四国遍路の霊場の砂を持ち帰り、成就山のルートにその砂を撒き、その後に88の札所の建設を開始した。札所には仁和寺の本尊である弘法大師が祀られている。巡礼路にある建物のひとつは、四国遍路にある浴場の一部を形成していた。巡礼者は88番目の最後の札所を訪れた後にここを訪れ、身を清めていた。仁和寺では浴場としては使用されておらず、現在の四国遍路にも、疲れた巡礼者のためのそのような施設は存在していない。